

授業科目名	医学の基礎			担当教員名	櫻井 一成
科目区分	単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
学部共通専門科目	必修	2	1	春・秋学期 火・1 火・2 木・1 木・2	講義
授業概要					
<p>学生生活を営み社会活動に従事していくためには、「心と体の健康づくり」とともに、これを保持していくことが第一である。そのためには、まず自らの体の仕組みについて知っておかなければならない。そのうえで、病気に罹患しない環境づくりを推進していくことが重要である。特にこれからの観光文化産業従事者においては、急速に進む高齢者社会を背景に、健康面を重視した対応が求められることになる。</p> <p>本講は、医学に関する基礎知識を備えた観光文化産業従事者の育成を目的とする。本講では、秋学期以降に開講するトラベルヘルス科目（旅行保健学および旅行医学）の円滑な導入に向けて、その理解および実践を可能にするために必要不可欠な医学に関する基礎的知識を習得する。講義の骨格：まず人体の構造と機能（解剖・生理学に相当）を学んだ後、主要臓器の働きおよび主な疾患についての理解を深める。また各疾患については、その病因と病態（病理学）、臨床症状に加え、予防や対処法などについて、薬理的知識などを含めて学ぶ。なお関連講義として、医療保険の仕組みや現代医療を取り巻く諸問題についても適宜解説を加える。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ☆ 観光文化産業従事者に必要な、医学に関する基礎的知識とこれに関連する一般的知識を身につける。 ☆ 本講の学習を通じて、関連科目：「トラベルヘルス基礎編／応用編（次学期以降履修）」、救命救急技術、医療英語、ヘルスツーリズム、バリアフリーツーリズム、ケア・社会福祉論等に関する理解を深める。 ☆ 学生生活や社会活動の基本となる「心と体の健康管理」に対するモチベーションを高めると共に、職業人として必要とされる保健・基礎医学、現代医療環境等について十分認識させる。 					
授業方法（展開）					
<p>本講は講義形式（プレゼンテーションと解説）主体で、毎回、講義内容をハンドアウトとして配布する。また適宜、医用模型を用いた解説を行い、関連項目についてはDVDの視聴を通じて理解度を高める。毎回、重要項目を主体に設問を課し（小テスト施行）、回答のうえ提出する。なお毎回の小テストは返却しないので、再度復習しておくこと</p>					
関連科目・知識・スキル					
<ul style="list-style-type: none"> ☆ 本科目の単位取得後、次学期以降に開講する「トラベルヘルス（基礎編および応用編）」科目の理解を容易にする。また関連科目（救命救急技術、医療英語、ヘルスツーリズム、バリアフリーツーリズム、ケア・社会福祉論等）に関する理解を深める。 ☆ 応用編単位取得後、旅行健康管理者（トラベルヘルスマネージャー）の資格を取得することができる。 ☆ 実践例として、健康面を重視した旅行計画の立案に向けての礎とする。 					
成績評価					
<p>講義内容の理解度判定小テストを毎回施行し、その結果を単位試験の評定に加味する。白紙での提出、学籍番号・氏名の不記載、代理記載（処罰の対象となる）等は評価の対象とならない（欠席扱いとなる）ので十分</p>					

注意すること。 配点：理解度試験(毎回の小試験)25%(=25点)、単位試験75%(=75点)とする。

教科書・参考書など

(参考図書)「からだのしくみ事典：浅野伍朗 監修、成美堂(せいびどう)出版、1500円+税」

(準参考図書)「新版 病気の地図帳：山口和克 監修、講談社、4000円+税」

※ 関連図書については、図書館の所蔵図書を積極的に利用しよう。

履修上の注意事項

本講は必修科目であり、本講の履修を終了し単位取得に至らなければ、続いて履修する「トラベルヘルス(基礎編および応用編)」科目(いずれも必修科目)の受講へ進むことができないので、少なくとも2年次修了までに単位の取得を完了しておくこと。本講においては、毎回の講義における着実な知識の積み重ねが肝要であり、十分な知識の蓄養と確実な理解のもとに「トラベルヘルス(基礎編および応用編)」科目を履修するよう心掛けること。欠席した場合は、欠席回の講義プリントを受け取り(次講で前回分を配布)、必ずや自ら補習しておくこと。また講義内容の理解が困難な場合は、積極的に質疑を行い疑問を残さないこと(メール可)。

3回の遅刻(原則として授業開始後20分以上)で1回分の欠席扱いとする。欠席が6回に達した場合は、再履修(単位試験の受験資格なし)となる(※)。出席回数が限界に達し、最終的に慌てることのないよう十分注意すること。また他の学生に迷惑をかけるなど授業態度に問題がある者は退出させ、以後、欠席扱いとする。

※但し、公認欠席が発生した場合は、その回を除いた全授業回数の2/3以上の出席が、試験受験に必要な

次ページに続く

授業の柱(単元)と授業スケジュール

下記の項目を骨子として医学的基礎知識および基礎知識について学習する。まず人体の構造と機能について知ってもらおう。人体を領域別に頭頸部、胸腹部、四肢等に区分し、主な構成成分である諸臓器（口腔、食道、胃、小腸、大腸などの消化管、脳、心臓、肺、脾臓、肝臓、腎臓など）や主な骨、筋肉、血管、神経などの名称、配置、機能などについて学ぶ。また主要臓器の働きが悪くなったり機能しなくなった場合、どのような状況に陥るかを、生活習慣病、感染症、悪性腫瘍などとの関わりとともに、免疫系、循環器系、呼吸器系、消化器系、代謝系、泌尿器系、婦人科系における重要度の高い各種疾患を主体に、その原因、疾患の成り立ちと病態、症状、予防と対処（治療法）等について学習する。

- 第 1 講 「序論」～医学を学ぶことの大切さ～、「人体の構造と機能について」、アンケート実施
- 第 2 講 「体液の話」～血液とリンパ液の働きについて～
- 第 3 講 「免疫力を高めよう！」～ストレスから身を守るために～（DVD 視聴：免疫力アップ法）
「増え続ける性感染症（STD）⇒冊子配布（必ず一読しておくこと）」
- 第 4 講 「心臓の働きと心臓病について」（DVD 視聴：高血圧症）
- 第 5 講 「血圧の話」～動脈硬化と高血圧 ～さあ血圧&脈拍を測ってみよう！～（全員の血圧・脈拍測定）
- 第 6 講 「恐ろしい生活習慣病」～メタボリック症候群の予防～
- 第 7 講 「脾臓の働きと糖尿病について」～知らないうちに触まれているかも？～
- 第 8 講 「突然襲う！脳卒中」～アッ！という間に命取り～
- 第 9 講 「消化管の働きについて（1）」～口腔・歯の役割と咽喉頭、う蝕と歯周病について～（DVD 視聴：親知らずと口唇について）
- 第 10 講 「消化管の働きについて（2）」～飲食物は食道から胃、小腸、大腸へ～
- 第 11 講 「沈黙の臓器」～肝臓の働きと肝疾患～（DVD 視聴予定）
- 第 12 講 「腎臓の働きと腎疾患」～体液の濾過ができないと…
- 第 13 講 「男性に多いがん／女性に多いがん（総論）」（DVD 視聴予定）
- 第 14 講 「男性に多いがん／女性に多いがん（各論）」
- 第 15 講 「保険のしくみと現代医療を取り巻く諸問題について」

単位試験：学年暦で定められた試験期間に別途実施する（60点以上合格）。

※ 適宜「トピックス」講義を追加することがある。毎回、復習をしっかりとしておくこと。

学生への一言

「努力よりほかにわれわれの未来を良くするものはなく、また努力よりほかにわれわれの過去を美しくするものはないのである」（幸田露伴のことばより）